

条^{でう}までを九重の都と号せり。油小路より東を左^さ近^{こん}、西は右^う近^{こん}と申。右^う京^{きやう}は長^{ちやう}安^{あん}、左^さ京^{きやう}は洛^{らく}陽^{やう}と号す。されば内裏は代々少づ、替とは申せども、洛中洛外の堺は聊も違ふ事なし云云。法住院常徳院の時代より此京衰へ申、やゝもすれば戦場と成に付て、万民跡を止ず都鄙の往来なきによりて自零落すと聞候。秀吉^{ひでよし}公聞召て、さあらば先洛中洛外を定べしと、諸大名に仰付られ、東西に土堤をつかせ給ふ。扱一切の寺院洛中に充満て在家に並びければ、徳善^{とくぜん}院^{ゐん}に仰付て諸寺は京極^{きやうごく}より一町東へをし出して、北は鴨^{かも}口^{くち}より南は六条^{でう}まで片面に屋敷をわたさるゝと云云。